

平山 健元理事のご逝去を悼む

東京地学協会の元理事・評議員平山 健会員は、平成 12 年 12 月 13 日急性肺炎のため、ご逝去になり、享年 86 歳とのことです。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平山会員は昭和 44 年 5 月から東京地学協会の理事および評議員を、昭和 54 年 5 月から 6 ヶ年間は評議員を、さらに会館建築委員会、将来検討委員会、図書委員会、地学クラブ世話人の委員を多年つとめられ、昭和 56 年 5 月から 60 年 5 月までは図書委員長に就任され、協会の発展に大いに貢献されました。

平山会員は大正 3 年 8 月 25 日、わが国天文学界の創始者の帝国学士院会員、東京帝国大学名誉教授、元東京天文台長平山 信博士の御三男として誕生、旧制武蔵高等学校理科 2 類を経て、京都帝国大学理学部地質鉱物学科を昭和 15 年 3 月にご卒業、直ちに九州帝国大学理学部地質学教室に助手・講師として勤務、昭和 17 年 5 月には旧商工省地質調査所技師に任命されました。昭和 28 年には地質部図幅第 2 課長を、昭和 38 年には地質部主任研究官を歴任し、7 万 5 千分の 1 脇町および徳島両地質図幅を完成され、戦後まもなく始まった 5 万分の 1 端野、荒島岳、吉野山、高野山、海南、動木、八幡浜、伊豫高山の各地質図幅を完成され、図幅調査研究事業の復興に大きく貢献されました。

昭和 26 年地質調査所本報告 141 号には“香川県白鳥本町附近の所謂スペッサルタイト及び文象斑岩について”という論文を公表され、さらに主論文“石英光軸の方向性にあらわれた徳島県東部長瀬変成岩帯の地質構造”により、昭和 32 年 9 月に京都大学から理学博士の学位を授与されました。

平山会員は国内の調査研究に多くの業績を残されたばかりでなく、すでに昭和 26 年 3 月から 6 ヶ月間“含銅硫化鉄鉱床及び変成岩変成作用の研究”のため米国カリフォルニア大学へ出張されました。

昭和 33 年 6 月から 1 ヶ年間、コロボ計画によりインドネシア国地質調査所に赴き、鉱床開発、図幅調査を推進、昭和 37 年 10 月から 3 ヶ年間、



国連による専門家としてイラン国に出張、米国地質調査所のアンドリウス博士や東大の故岩生名誉教授と共に、イラン国地質調査所の創設事業に参画、鉱物資源調査やイラン国で初めての図幅調査を担当され、昭和 43 年、地質調査所本報告 226 号には“Geological Study on the Anguran Mine, Northwestern Part of Iran”と題する論文を公表、昭和 41 年 9 月から 9 ヶ月間、サウジアラビア国政府の要請で、鉱産資源開発のため石油鉱産資源省に勤務、昭和 43 年 3 月から約 1 ヶ年間、中南米技術協力計画に基づき、エクアドル国に出張、昭和 45 年 3 月から 2 年 6 ヶ月間、国連の職員としてトルコ国に赴任されました。このように 10 年近く海外調査研究に尽くされ地質調査所の国際協力の基盤作りにも多大の貢献をなさいました。地質調査所ご退官後は早稲田大学講師として学生の育成に尽力されました。

平山会員は敬虔なクリスチャンで、内村鑑三先生の無教会主義を語りあったり、武蔵高校の和田八重造先生に地学を学ばれた先輩でした。調布図書館などの点訳ボランティア活動をされたり、イランの報文には短歌を寄せておられ、ご造詣の深さを改めて知りました。キリスト教により培われた信念によって素晴らしい生涯を貫かれた地質学者であり、心から敬意を表したく存じます。

御遺族は、調布市東つつじヶ丘 2-24-7 に岸子夫人がおられます。 神戸信和